

2020年度 事業計画

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

(1) 調査研究事業

●シギ・チドリ部会

球磨川ラムサール条約湿地登録の活動と連動して、シギ・チドリ類、ヘラシギ保全を目的としたシンポジウムと、EAAFPシギ・チドリ類ワークショップへの参加、越冬地へのツアーを計画することとしている。このワークショップでは1月の日露米ハマシギワークショップの結果を受けて、東アジア・東南アジアのハマシギ越冬地の各国と共同で取り組むためのシンポジウム開催の予定である。

今年度は、WWF香港のアジア水鳥保全基金に2年間90万円の助成申請を行っている。

* 予算50万円 (WWF 香港助成金)

(2) 保全・再生事業

●沖縄・開発問題部会

湿地破壊の開発に対するアクションを行うことが当部会の目的だが、新型コロナウイルス感染対策が長期化し、人が集まるイベントを企画しにくい状況がある。また、11月～2月にかけてはラムネットJのイベントが過密している。組織基盤の強化が迫られているなか、集会系の新たな企画はできるだけ控えたいと考えている。

泡瀬干潟でのシンポジウムを秋頃に計画するかどうか検討中である。* 予算50万円 (大竹財団に申請を検討中)

辺野古新基地建設や石木ダムなど差し迫った問題がある。集会系の企画は控えるとはいえ、様々な開発に対する行動は必要である。声明や申し入れ、印刷物やインターネット等での発信など、できることは適宜行っていく。

「水の自然な流れを守る」取り組みでは、複式干拓、埋め立て、ダム・堰、巨大防潮堤、地下水脈破壊など、水の自然な流れを阻害する開発に悩む地域と交流を広げるため、湿地のグリーンウェイブを通じた地域交流の取り組みと連携していきたい。また、昨年8月の設立10周年シンポジウムや11月の日韓NGO湿地フォーラムの成果を受けて、

- ・ラムサールCOP14に向けた国別報告書のチェック
- ・2021年からの生物多様性国家戦略案のチェック
- ・和訳した決議や資料の利用、地域への拡散

などに取り組みたい。

豪雨被害が年々大規模化し、ダム・堰によらない防災対策の在り方が問われている。湿地の防災機能について考察し、発信していくことも課題である。

泡瀬干潟・北中城ラムサール登録予定地をフィールドにしたCEPA活動の実施及び支援。2020年4月より沖縄の大学関係者や大学生たちが取り組んでいる様々な活動に対して、CEPAの担い手を育てる立場から、助言・支援をしていきたい。

●田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト（田んぼ10年プロジェクト）

・国内での活動

田んぼ10年プロジェクトの新規計画キックオフ全国集会、地域交流会（小松島市・10月）、地域意見交換会（九州1回、北海道1回）の開催。

2021年以降の田んぼ10年プロジェクトの後継となる、新行動計画書を作成する。

「田んぼ10年だより」を発行。ホームページの更新。メーリングリストでの情報提供や意見交換による有効活用。

ラムネットJ水田部会開催。水田決議円卓会議準備会開催（ラムネットJ、環境省、農水省、国交省）。にじゅうまるプロジェクト会議および全国行動に参加する。

・国際的な活動

国際会議への参加：IUCN世界自然保護会議（マルセイユ）。CBD COP15（中国・雲南省昆明）。

国外での田んぼの生き物調査・交流：韓国で田んぼの生きもの調査。CBD COP15の参加と合わせて中国・雲南省で調査と意見交換、ヒヤリング。

* 予算650万円（地球環境基金助成600万円、企業協賛金50万円）

●国際条約に基づく湿地保全

・ラムサール条約

国別報告書の作成や条約湿地関係市町村会議などラムサール条約の運営関係事業を通して、国内外の湿地保全を進める。2021年のCOP14およびその後の新規の条約登録にむけて球磨川河口など地域活動を支援する。また、中池見湿地などの既存条約湿地および国内の重要な湿地の維持・管理や利用計画の改善にむけて、環境省や自治体等へ働きかけを行う。

* 予算10万円

・生物多様性条約

生物多様性条約関連の国際会議や国別報告書の点検など条約運営の枠組みを通して、国内外の湿地保全を進める。中国雲南省で開催が予定されているCOP15へ参加し、国内の湿地の生物多様性保全の課題を示すとともに、国内外の湿地保全の取り組みを進める。

●国内の政策提言

・生物多様性国家戦略への働きかけ

生物多様性国家戦略改訂において、湿地保全が十分に組み込まれるように検討を行う。改訂への働きかけでは、国内のNGOと連携する。

●球磨川プロジェクト（本年度からの新規事業）

過去に絶滅危惧種ヘラシギが観察され、クロツラヘラサギの安定的な中継地となっている球磨川河口域につき、次回COP14までにラムサール登録湿地に指定されることを支援し、同時に、「水の自然な流れ」の重要性を啓発する事業も併せて行う。柱は次の二つ。

1) 球磨川河口ラムサール登録湿地支援

「地元の賛意」獲得のための支援活動 * 予算102万円

・田んぼの生き物調査（こども）実施 2020年夏頃

・多面的機能支払交付金に関する講演会の実施 2020年夏頃

- ・鳥による食害実態調査の支援（熊本大学に依頼予定）2020年秋頃
「ヘラシギ、クロツラヘラサギ中継地の重要性のCEPA活動」*予算33万円
- ・シギ・チドリ類、ヘラシギ保全を目的としたシンポジウム 2021年2月頃
→ (1) 調査研究事業/シギ・チドリ部会の項参照

2) 水の自然な流れ

- 「日韓湿地NGOフォーラム」2020年12月頃 *予算70万円
 - ・水の自然な流れの重要性や地元の賛意の獲得方法につき報告
→ (4) 国際協力事業/日韓湿地NGOフォーラムの項参照
- 「IUCNの世界自然保護会議（マルセイユ）参加」2021年1月 *予算43万円
 - ・「水の自然な流れ」の動議（現在最終投票待ち）の広報と情報交換。
→ (2) 保全・再生事業/田んぼの生物多様性向上10年プロジェクトの項参照

(3) 普及・啓発事業

●湿地のグリーンウェイブ

現在開催中の湿地のグリーンウェイブ2020は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、各地のイベントへの影響に配慮して4月～8月と1か月延長して実施中、4月現在で60のイベントが参加している。ただ現状としてはここまでのほとんどが実施できない状況なので、期間を10月までに延長し、実施が予定されたイベントについては引き続き、ホームページなどでご紹介する。

合わせて国連生物多様性の10年日本委員会のグリーンウェイブ（6月15日までに開催分）、またにじゅうまるプロジェクトにも参加登録の予定。

また当初各地のイベントに出向いて参加、直接的に地域の草の根の活動を応援することとしていたが、フィールドでの活動が制限されている中、オンライン上の活動を充実させることで、遠方の地域とのつながりを強め、活動の応援となる取り組みにしたいと考えている。

なお今年度は、パタゴニア日本支社の助成を受けて実施中。

- 1) 湿地のグリーンウェイブ2020キャンペーン参加イベントのリストに加え、湿地のことやグリーンウェイブの紹介なども盛り込んだ全16ページ版のパンフレットを作成・配布。
- 2) 専用ホームページでのイベント紹介
例年通り、参加イベント・参加団体の紹介、地域の湿地の紹介などを掲載。実施されたイベント、もしくは代替えの取り組みがあれば報告いただき掲載。
- 3) 「グリーンウェイブ2020」や「にじゅうまるプロジェクト」への参加登録および、にじゅうまる後継組織によるイベントなどへの参加。
- 4) Facebookの湿地のグリーンウェイブグループの活用、また各地とのつながりの強化に向けての取り組みとして、各地からの活動報告をメインとしたオンラインミーティングを開催。
- 5) 湿地のグリーンウェイブとして、ラムサール登録を目指している湿地の応援となる取り組みとして、4)のオンラインミーティングや、各地で開催されるイベントに出向いてのアピールを行う。

*予算65万円

(4) 国際協力事業

●翻訳プロジェクト

ラムサール事務局からすでに示されている次回COP14のための「国別報告書（英語）」の邦訳を行い、各地湿地NGOからの意見集約に貢献する。

気候変動の観点からも泥炭湿地（PEATLAND）の重要性を指摘する「SMOKE ON WATER countering global threats from peatland loss and degradation」（UNEP；図版写真含めて72頁）は、これから注目を集めると思われるので邦訳を試みる。

●日韓湿地NGOフォーラム

2020年12月頃、球磨川プロジェクトの一環として開催する。

→（3）保全・再生事業／球磨川プロジェクトの項参照）

(5) ネットワーク推進事業

●ニュースレター

昨年度と同様に、2020年度も4回発行する（4月初旬、7月初旬、10月初旬、1月初旬）。各地の関連団体や施設の連絡先を収集し見本を送るなどして、入会購読や配布を依頼し、ラムネットJの組織・活動の周知や会員の拡大を図る。

*予算20万円

●ホームページ

ホームページで使用している管理ソフトが古くなり、サポートも終了しているため、新しいソフト（フリーウェア）への移行が必要となってきている。昨年は予定通り実施できなかったため今年作業時間を確保して取り組む。

●パンフレット類

・ラムネットJ団体紹介パンフレット

企業、行政、他のNGOなどにラムネットJに関するプレゼンテーションを行う際に使用する、組織や活動内容などを紹介したパンフレットを作成する。特に企業協賛の拡大のために活用する。

・ラムネットJ団体紹介リーフレット（個人向け）

ラムネットJの組織、活動、入会案内などを簡潔に記載した、会員募集、カンパ募集のための小型リーフレットを作成し、会員拡大のために活用する。

*予算9万円

(6) その他の事業

1) 設立10周年事業

●冊子・アーカイブ

4月から冊子に関する作業を再開して6月中には冊子を完成させ、その後アーカイブ作成の作業を再開させて12月までにアーカイブ完成を目指す予定である。この冊子・アーカイブ作成に要する費用と、10周年冊子をベースに行うパンフレットの編集作業は、2020年度の寄付金で賄うものとする。パンフレットの印刷費用はネットワーク推進事業として計上する。

*予算30万円

→ (5) ネットワーク推進事業／パンフレット類の項目参照

2) 組織構築の課題への取り組み

●基盤強化部会（評価部会、ビジョン検討部会、事業検討部会）

理事会に提出する評価部会報告に基づいて、年度末に自己評価を行う。

この部会内に活性化対策委員会を設置し、事務局の人材と安定収入の確保のために、団体紹介パンフレットを作成して企業協賛を得るための活動を行う。

→ (5) ネットワーク推進事業／パンフレット類、(6) その他の事業／設立10周年事業／冊子・アーカイブの項参照